

文 アート・ソムリエ 山本冬彦

No.2

今回は中国から留学し日本で活躍している3人の作家を紹介したい。

一人目は顧洛水さん。1986年洛陽生まれ。2016年京都造形芸術大学博士課程修了、現在非常勤講師。学生時代から関西を中心に発表していたが、佐藤美術館の「画心展」や三菱商事アート・ゲート・プログラムで注目し私の企画展にも参加している。2013年には「デビュー美術新人賞展」、2014年「春の院展」初入選。最近「YOUNG ART TAIPEI」 「ART BEIJING」 「ART FAIR TOKYO」 「美人画(くし)」出版記念展、「京都 日本画新展」優秀賞など大活躍の人気作家になっている。北京の大学での日本画の集中授業で興味を持ち、敦煌壁画を模写していた頃北京美術館で平山郁夫展を見て共通点が多いと思いい日本画を学ぶため日本留学。最近女性やヌード作品を描いているが、ただ女性の見た目の美しさを表現するだけでなく、写実的なフォルムから脱出し、自身の情念や熱意を作品に入れ込んで、観る人を揺り動かすような作品を作ることを目指していると言っ。

二人目は張媛媛さん。1984年湖北省出身。2008年大連大学卒業後建築会社に就職したが絵を捨てきれず一年後退社して2012年横浜国立大学教育学研究科(絵画)を経て2019年東京藝術大学大学院(油画技法材料研究室)を修了。彼女の作品との出会いは2018年のアートコ



顧洛水〈春・雨〉

ンプレックスセンター東京の留学生交流展だが、見覚えのある技法は横浜国立大学で師事した赤木範陸先生の古典絵画技法を学んだからだと知った。東京藝術大学でヨーロッパの古典絵画技法と中国宋代の院体画との関連性において、既成の真似ではない「style」(メチエ)を完成させようとする研究。2019年にはロータリー米山記念奨学金支援、東京藝術大学大学院修了展覧会・メトロ口文化財団賞受賞、第37回上野の森美術館絵画大賞と目覚ましい活躍をして一躍注目作家となる。今後は、日本を主な拠点とし、

中国、台湾等で活動し、世界に存在する様々な「壁」を美術というジャンルで繋ぐことに努め、世界平和に貢献したいと願っているとのこと。

三人目は郝玉墨さん。1990年北京生まれ。2012年天津美術学院卒業後日本に留学し2015年筑波大学大学院日本画研究室研究生修了。現在東京藝術大学大学院博士後期課程(文化財保存学専攻保存修復日本画研究室)在学中。同大学院修士課程の修了模写は、平山郁夫奨学金受賞。彼女の作品を最初に見たのは2019年保存修復日本画研究室創作展で、その内の1点が第21回雪梁舎フイレントゥエ賞展に入選。父が中国水墨画家で、幼児から中国の伝統的な文化やアトリエにある日本に関する本に触れていて日本に興味を持ち、日本の伝統的な文化を知りたくて大学卒業の翌年日本へ留学。日本でもう6年目だが、「勉強したいことがまだ沢山あり、将来帰国したら日本で勉強できたことと中国のことを合わせて、自分しか描けないものを出したい。若い頃からテーマや画風を固定せず、多様な題材、絵画手法、絵画様式を試したい。絵を作るのと人生に挑むのは同じ」と思い、疑問、発想などを一つずつ実践しながら一步一步成長していきたくてと言っ。



張媛媛〈波乗り猫〉



郝玉墨〈無尽夏〉

※来年の1月に奥野ビルの銀座中央ギャラリーで、この3人展が予定されている。

profile: やまもと・ふゆひこ

保険会社勤務などのサラリーマン生活を40余年続けた間、趣味として毎週末銀座・京橋界隈のギャラリー巡りをし、その時々若手作家を購入し続けたサラリーマンコレクター。2012年放送大学学園・理事を最後に退官し現在は銀座に隠居。2010年佐藤美術館で「山本冬彦コレクション展:サラリーマンコレクター30年の軌跡」を開催。著書「週末はギャラリーめぐり」(筑摩新書)。

